

大人の行動

理事 小原 章



このところ世間では森友学園問題、豊洲問題、シリア内紛問題、北朝鮮問題等々、いろいろな話題が持ち上がっています。テレビのニュース、ワイドショー、新聞、週刊誌等で毎日のように取り沙汰されています。これらの問題へ当事者や周囲の人間の対応を見ていると子育てやこれからの自分の人生を見通して大変参考になることに気が付きました。

森友学園問題では幼稚園の教育のやり方や保育園経営の不適切さで理事長夫妻の非常識に驚いてしまいますが、そんな人たちに国民の財産である国有地をととても安く売却し、土地売却に至るまでの話し合い等の記録をすぐに廃棄してしまったと主張する近畿財務局、借地契約もなければ、土地を所有もしていないのに学校認可適当と判断した大阪府等々、何もわからない、みんな間違ったことはしていない、ということになっているようです。また築地市場の豊洲への移転問題でもいろいろな疑問がなかなか解明されません。これだけ話題になり、多くの国民が「おかしくないかな？」と疑問を持っていることなのに何も疑問が解明されない。ひとりの日本国民としてとてもやりきれない気持ちです。

シリアの内紛ではサリンと思われる化学兵器爆弾が使用され一般の人々や小さな子どもたちまでが苦しみの中で命を落としました。その報復としてアメリカが空爆をおこない、また多くの命が奪われました。太平洋戦争で多くの命が奪われたことを学習し、また地下鉄サリン事件を目の当たりに見てきた者としてとても悲しい気持ちです。

北朝鮮問題では核実験やミサイル発射実験が行われ、アメリカは今にも先制攻撃をしそうな勢いです（5月初め現在）。アメリカと北朝鮮の問題なのに日本がミサイルの標的になるかもしれないという戦争に対する不安が募っています。日米安保があり米軍基地があって日本はアメリカに守られていることは有り難いとは思いますが、割り切れない気持ちも否めません。なんだか世界中が争いあっているようにも思えてきます。国家の暴走に我々はどうか対処していくべきなのでしょう。せめて世界で唯一核爆弾の攻撃を受け本当の核の恐ろしさを知っている我々日本人はどんなときでも武力行使はせず対話による外交で平和を維持すべきとの主張を持っていたいものです。

これらの問題で大人のとっている行動は、大人が「やってはいけないことだよ」と子どもに対し語り教育していることではないでしょうか。「自分のとった行動や決断に責任を持つ」「言い逃れや嘘はつかない」「暴力をふるわない」「みんなと仲良くする」。私たち保育者だけでなく、親は、大人は、そう言って子どもに接しているのではないですか。子どもには言うのに自分ではできないのでしょうか。それとも俗に言う「本音と建て前」なのでしょう。

大人の中のずるさ、弱さのような気がしてなりません。そのために他人が困ったり、傷ついたり、泣いたり、命を落としたりしていくのではないのでしょうか。これらの問題は自分の大人としての生き方を考え、子どもとどう接していくべきか、人間としてどんな行動をとっていくべきかを考えるいい機会になるのではと思っています。

聖人君子にはなれませんが、子どもの手本となるような行動をとり、恥ずかしくない人生を送っていくとともに、保護者の皆さんにも親の言動の大切さを伝えていきたいものです。